

# 北海道・標津町インターン 実施報告

共 催	知床・しべつ交流企画・一般財団法人 共立国際交流奨学財団
日 程	2016 年 2 月 20 日(土)～28 日(日)
インターン受入先	北海道・標津町 ホテル川畑
インターン生	劉 茵 (中国) 首都大学東京
体験内容	接客業務、海外からの観光客へ通訳等

知床・しべつ交流企画と共催で、北海道標津町にあるホテル川畑にて、インターンの受け入れをしていただきました。当財団が、インターンに参加したい留学生を募集し、ご応募をいただきました中から、書類審査で、劉 茵さんを採用させていただきました。

劉 茵さんには、9 日間、インターンとして、ホテル川畑で、ホテルの業務を、仕入れから接客まで体験していただきました。また、標津町の観光支援として、外国語のパフレットや町案内の標識の作成の手伝いなどをしていただきました。

## 劉 茵さんに感想を伺いました！



中標津空港ゆきの飛行機に乗っていた私は、こんなに楽しい旅が私を待っているとは、思えなかったです。

ホテル川畑の支配人である川畑ご夫婦が空港までお迎えに来てくれました。沿途風景を案内されつつ、標津やホテルの状況を教えてくれました。標津は人口は約 5000 人の小さい町で、車で電車の最寄り駅に行くために約 2 時間がかかるそうです。海の方へ側は今ロシア人が占拠の国後島で、標津とは橋でも架られそうな距離だと女将さんが言ってました。ホテル川畑は約 95 年の歴史があり、今の経営者は三代目だそうです。2 月の北海道はまだまだ寒さが続き、積雪は結構あります。東京とはまったく違う風景なので、私はとても新鮮だと感じました。空港から約 20 分にホテルに着きました。客室のルームキーを渡され、扉を開けたらきれいな和室でした。初日はまだ勤務がなかったので、荷物を部屋に置いてからさっそく標津町街に出かけてみました。

近くに何軒のお店がありますが、道路に除雪している人以外にあまり人を見かけず、車はしょっちゅう来たりしています。ゆったりできるような静かな町です。

翌日よりお仕事が始まりました。食事の配膳やフロートの対応、お客様食事時のホールなどをやらせていただきました。海外のお客様がいらっしゃいましたら、中国語と英語で対応し、ほかの従業員の方にフォローしました。厨房でお手伝いをした時、魔法のように宴会に出せるほど料理は食材から作られた過程が、何十回も見届けました。お客様に何かを聞かれた時、従業員たちの丁寧な対応は、何度見ても感動しました。ささやかなことでもしっかり気遣いができ、ホテル川畑はとても感じのいいホテルだと私が思っています。

ここは宿泊だけでなく、日帰り温泉や宴会にも承ります。観光客以外に、地元の人にもよく利用するようで、ホテルの存在は地域交流にも貢献しています。従業員みなさんが優しい方ばかりで、本当にお世話になりました。お仕事中にミスを指摘してくださり、丁寧に作業のコツを教えてくれました。休憩中に地元のお話もいろいろ聞かせていただき、楽しい時間を一緒に過ごしました。最初から最後までお付き合いをしていただいて、本当に感謝するしかないです。きっと、こんなに素敵な従業員さんたちはホテルの一番な宝物でしょうね。北海道は寒いですが、ホテル川畑はとても温かいです。別れたときに、もう少し居たい、帰りたくないという気持ちはいっぱいあって、何回も泣きそうでした。濃い 9 日間をありがとうございました。

東京に戻った後も、標津のことを振り返ってみれば、温かく優しい気持ちが残ります。きっと標津という地名は、私の中では、特別な場所になるのでしょうか。また行きます！

# 新聞に掲載されました！

標津町インターンの様子が 2016 年 2 月 24 日(水)の釧路新聞と北海道新聞で紹介されました！

釧路新聞 平成28年(2016年)2月24日(水曜日)

## 中国人留学生の劉茵さん



「旅館ならではのおもてなしを学びたい」と意欲を見せる劉茵さん

【標津】中国大連出身で首都大東京(東京)で国際法を学ぶ留学生の劉茵さん(26)が、「標津川温泉」の「ホテル川畑」で、インターンシップ(職場体験)に取り組んでいる。

劉さんは2012年からホームステイ研修を実施している一般財団法人「立国国際交流奨学金財団」(東京)が、昨年に同町の観光コーディネーター「知床しべつ交流企画」に、インターンの受け入れを打診したのがきっかけ。

### おもてなしを学びたい

## 宿泊施設で職場体験 標津

母国の大学で日本語を学び、3年前から留学している劉さんは、東京スカイツリーなどのアルバイト経験から、日本のサービス業に強い関心を抱いたという。総合職として大手スーパー「西友」への就職がすでに決まっていたが、多様な現場で「おもてなし精神」を学ぶため、1月には釧路県の大標津町に研修を行った。

同町のインターンは2012年、食事の配膳やフロントなどを担当し、母国語や流暢な日本語、英語を生かして外国人客にも一役買っているという。劉さんは「旅館が舞のドラマに憧れて、規模の小さな宿泊施設に興味を持った。細やかなサービスを学びたい」と意欲を示す。

同町の川畑温泉さんは「同僚として留学生と仕事をすること、考え方や見方がかかってくる。期間中、地域と交流の機会を持たせたい」と話している。(熊田由希)

2016年(平成28年)2月26日(金曜日) 北海道新聞(夕刊)

## 中国人留学生・劉茵さん

【標津】首都大学東京(東京)の研究生として中国から留学中の劉茵さん(26)が20日から町内のホテル川畑でインターンシップ(就業体験)を行っている。今年4月に大手スーパーに入社予定の劉さんは「日本のいろいろなおもてなしを学びたい」と意欲込んでいる。(樋口雄大)

## ホテル業務経験「うれしい」

劉さんは中国の大学を卒業後、2012年に来日。福岡県の日本語学校などで学び、14年から首都大学東京の研究生になった。現在は勉強の傍ら、東京スカイツリーで外国人観光客の案内などのアルバイトをしている。

今年1月に就業体験した釧路県の大型ホテルでは、300人近い従業員が部門ごとに仕事をしていたため、フロント業務しか経験できなかったという。一方、ホテル川畑では



「一生懸命で気づかぬうちに、素晴らしいおもてなしができています。多くのことを学んでいってほしい」と話していた。

ホテル川畑の川畑喜美子さんは「インターンシップで、食事の準備など多くの仕事をこなさなければならぬ。刘さんのことを経験して、字べるのでとてもうれしい」と話す。28日の福井まで、地域のことにも勉強したいという。

標津でおもてなし学ぶ

北海道新聞